

独立行政法人国立環境研究所公開シンポジウム 2008
『温暖化に立ち向かう - 低炭素・循環型社会をめざして - 』

国立環境研究所では、毎年6月の環境月間にあわせて公開シンポジウムを開催しています。今年、「温暖化に立ち向かう - 低炭素・循環型社会をめざして - 」をテーマに、環境研究が温暖化問題にどのように貢献できるか、国立環境研究所で行っている研究の一端をご紹介します。

<開催日時・会場>

1. 東京会場

開催日時： 平成20年6月21日(土) 12:00 ~ 17:30

開催場所： メルパルクホール(定員： 約1,200名)

港区芝公園2-5-20 電話：03-3459-5501

アクセス： JR浜松町駅より徒歩10分 / 都営三田線芝公園駅より徒歩2分 /
都営浅草線・大江戸線大門駅より徒歩4分

2. 札幌会場

開催日時： 平成20年6月28日(土) 12:00 ~ 17:30

開催場所： 道新ホール(定員： 約700名)

札幌市中央区大通西3丁目道新ビル大通館8階 電話：011-210-5787

アクセス： JR札幌駅(南口)より徒歩10分 / 地下鉄大通駅より徒歩3分

<参加費・参加登録>

参加費は無料です。参加ご希望の方は、「公開シンポジウム 2008」ホームページ(<http://www.nies.go.jp/sympo/2008/>)にてお申し込みいただくか、氏名、年齢、性別、連絡先住所、電話番号、Fax番号、E-mailアドレス、参加希望会場(東京または札幌) 職業を明記の上、下記宛にE-mail、Fax又はハガキにてお申し込みください。後日、Email、Faxまたは郵送にて参加証をお送りします。

なお、申込多数の場合、会場定員に達した時点で申込を締め切らせていただきますので予めご了承ください。

<問い合わせ先>

国立環境研究所公開シンポジウム 2008 登録事務局

〒171-0042 東京都豊島区高松1-11-16 株式会社ステージ内

Tel.: 03-5966-5784 Fax: 03-5966-5773

E-mail: info_nies2008@comm.stage.ac

<プログラム>

- 12:00～12:50 ポスターセッション
- 12:50～13:00 開会挨拶 理事長 大塚 柳太郎
- 13:00～14:20 講演
向井 人史 「大気中に放出された温室効果ガスの行方を探る」
肱岡 靖明 「温暖化影響と気候安定化レベル」
- 14:20～14:35 休憩
- 14:35～16:35 講演
甲斐沼 美紀子 「低炭素社会 なぜ必要か？ どうすればできるのか？」
森口 祐一 「ごみ問題・3Rと温暖化のかかわり」
藤田 壮 「持続可能な好循環都市に向けて - 環境技術と社会技術の融合 - 」
- 16:35～16:40 閉会挨拶
- 16:40～17:30 ポスターセッション

<ポスターセッション> 研究者が、パネルを用いて来場者と対話しながら説明します。

1. 人工衛星による温室効果ガスの全球観測 - GOSAT プロジェクト -
2. 温室効果ガス濃度データベース・支援及び解析システム
3. 海洋コアに見る近未来地球温暖化と海洋循環変動の予測研究の最前線
4. 土壌有機炭素放出に及ぼす地球温暖化影響の評価
5. 温暖化がアジアの稲作収量に及ぼす影響
6. 高山植物の氷期・間氷期に応じた分布変化の歴史 - キンロバイを例にして -
7. 流氷は豊かな海をもたらすか？ - 沈降粒子からさぐる -
8. 熱中症の発生・死亡と気象条件
9. 日本低炭素社会実現に向けたロードマップの開発
10. 東南アジアのごみ埋立地からの温室効果ガスの放出と対策
11. 日本と世界で広がる電気電子機器廃棄物の流れ
12. バイオマス廃棄物の微生物発酵によるエネルギー回収
13. 2007年南極オゾンホール観測
14. オホーツク沿岸におけるサハリン産原油の分解現場試験
15. 林-つ地域を対象とした海洋生態系影響評価につながる「海域-陸域統合型GIS」の構築
16. 新たな環境GISの展開 地理空間情報活用推進基本法が成立して
17. 分子遺伝マーカーを用いて外来ザリガニ類の侵入生態を探る
18. 日本とオーストリアの戶外活動の比較調査
19. 変わりゆく都市の大気環境 - 微小粒子・二次生成物質の影響評価と予測 -
20. 自動車から排出されるナノ粒子の実態
21. 大気中微小粒子は人々にどんな影響を与えるか？